

もゆる浪漫

山形市立第八中学校たより
第8号 校長 長沼 政直
令和6年12月23日 発行

第2回学校運営協議会

—地域とともにある学校づくりの推進—

学校運営協議会は、山形市教育委員会が、学校や地域の実情に応じて設置するもので、本校では令和4年度に設置されております。主な役割として、①校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること、②学校運営について、教育委員会や学校に意見を述べること、③教職員の任命に関する意見を述べるができること、④地域にある活動組織と協働を進めていくこと等があります。

12月10日(火)に今年度2回目の学校運営協議会を開催し、生徒会役員との懇談会や教育活動の一部を観ていただいた上で意見をお聞きしました。また、山形市教育委員会 社会教育青少年課 小林星太 指導主事・社会教育主事からお話をいただき、「地域学校協働活動推進員について」というテーマで熟議を行ったところです。

<生徒会役員との懇談会>

生徒と直接話をする機会を設けました。今回は新旧の生徒会長、副会長、事務局長を中心に、地域ごとのグループを設けて、委員の皆さんと生徒会役員の皆さんとが、話し合いを行いました。昨年度は、生徒会立会演説会の際の公約を説明し、委員から意見をいただきましたが、今回は、小グループの中で交流を深めながら意見交換を進めることができました。



—八中はどうですか?— (委員より)

- ・八中が大曾根小のトイレをピカピカにしてくれた。小学生がとても喜んでいました。
- ・礼儀正しく、あいさつが明るくていいと思う。ひと頃より、態度も制服の着こなしもよい。
- ・あじさい祭りや大曾根夏まつりなどにも積極的に参加してくれた。合唱や花笠の踊りが地域を活性化させている。
- ・八中がテレビに出たり、新聞に載ったりすると、こちらも元気が出る。

—地域から何かありませんか— (委員より)

- ・祭への参加やトイレ清掃など、八中の良いところは、ぜひ継続してほしい。
- ・3つの小学校出身の生徒が協力し、学区関係なく活動に参加してくれているのがよい。
- ・少ない生徒数でも、何とか盛り上げてほしい。駅伝などがなくなったのは、寂しいと感じる。
- ・部活動はぜひ続けてほしい。
- ・才能ある皆さんが多いと思います。課題に気づき、主体的に取り組み、結果をどんどんアピールをしてほしい。
- ・あじさい交流館の花の水やりや、単身高齢者の家の雪はきなど、できそうなことはないか。

—八中生からの意見— (八中生より)

- ・どの小学区からも花笠などに協力してもらい参加できているところは良いところだと思う。
- ・自分たちが呼びかけて、募集をかけたいので、生徒会にボランティアの要請をしてほしい。
- ・地域行事には、その地区だけでなく、八中生全体として参加できるようにしてほしい。

<授業参観>

5校時の1年理科、2年音楽、3年社会、あじさい学級の授業を観ていただきました。昨年度は、タブレットを用いたICT教育を目の当たりにして時代の変化を感じましたとの意見をいただきましたが、今年度は、特に音楽の授業で、和楽の琴の学習をしている生徒の姿を見て、日本の伝統を大切にしている授業もなされていることに、温かみを感じたとの意見をいただきました。

これからも、ICT機器の授業での有効な活用方法を研究するとともに、中学生の時期に大切な感性教育などにも力を入れていきます。



栄光の記録より

◇南陽市体育祭菊祭り卓球大会

カデット男子シングルス

第3位 高橋 龍矢

◇山形市いじめ問題対策連絡協議会

いじめ防止標語 優秀作品 佐藤 凜子

「尊重しよう 一人ひとりの 光る個性」

12月10日(火)～13日(金)に生徒会

中央委員が、各教室前で赤い羽根募金を実施し

ました。17日(火)

の昼休みに、会議室

にて山形市社会福

祉協議会の方に、募

金13,171円を

手渡しました。



<これまでの教育活動を振り返って(校長所感)>

1 学校教育目標を達成するためのスケール・メリットを生かした教育の推進について

各学年1学級であることにより、外部講師を招聘しての授業がしやすいことから、地域の郷土史研究家やピアノ講師の方の協力を得て、授業を行うことができました。

また、2年生の里芋の収穫を体験だけに終わらせるのではなく、山形の文化である芋煮会まで繋げたいとの本校教職員の思いを、教育課程を工夫して急遽行いました。芋煮会には、1年生も加わりましたが、異学年交流がしやすいのもスケール・メリットの1つです。このような活動を次年度も継続する予定です。

2 ゆるやかな全員担任制の導入について

「だれにでも相談できる体制づくり、校内OJTによる担任力アップ」をねらいに導入しました。例として、学年以外の先生方が給食指導を行った後、教員間で情報交換することにより、給食指導の差異等に気づいたり、授業以外での生徒の様子を知ることができたりしました。次年度さらに充実させていきたいと考えています。

3 各教科1人の体制であるゆえの課題への対応について

同じ学校に同じ教科の教員が複数名いる場合、先生方同士で学び合いができますが、それができない状況が本校のデメリットと考えられます。そこで、今年度から本校教員は、年間3回を目安に外部研修(県外・県内の中学校、学区の小学校等)に出向いて資質・能力の向上を図っているところです。また、職員会議の際に研修報告をするしくみを作り、実施しています。研修時は、他の教員と授業交換をするなど、全職員で支え合うこととなりますが、研修で得た学びを活かし、八中生の指導に当たっていく方が、生徒のプラスに繋がると考えています。